

## U.S. Indicators

発表日: 2018年12月14日(金)

## 米国 18年11月鉱工業生産

～拡大モメンタムが小幅鈍化～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治(Tel:03-5221-5001)

	鉱工業生産		製造業 (NAICS)	鉱業	公益	ハイテク 関連	除ハイテク 関連	自動車関連	設備稼働率		生産能力
									全産業	製造業 (SIC)	
17/11	+0.5	(+3.4)	+0.2	+2.0	+0.3	+1.1	+0.3	▲0.3	+77.1	+75.3	+0.1
17/12	+0.5	(+2.9)	▲0.0	+1.1	+3.2	+1.4	▲0.1	+0.7	+77.3	+75.2	+0.1
18/01	▲0.3	(+2.8)	▲0.5	▲1.0	+2.1	▲0.2	▲0.7	▲0.4	+77.0	+74.7	+0.1
18/02	+0.5	(+3.7)	+1.5	+2.8	▲9.6	▲0.6	+1.7	+4.0	+77.2	+75.7	+0.1
18/03	+0.5	(+3.6)	▲0.1	+1.1	+4.2	+0.6	▲0.2	+2.8	+77.5	+75.6	+0.2
18/04	+1.1	(+3.8)	+0.6	+0.9	+5.8	+0.5	+0.7	▲2.1	+78.2	+75.9	+0.2
18/05	▲0.8	(+3.0)	▲1.0	+1.0	▲2.5	▲0.0	▲1.0	▲8.5	+77.5	+75.1	+0.2
18/06	+0.6	(+3.5)	+0.7	+1.8	▲1.6	+2.2	+0.7	+7.1	+77.8	+75.5	+0.2
18/07	+0.4	(+4.1)	+0.3	+0.9	+0.2	+1.1	+0.4	▲2.4	+78.0	+75.7	+0.2
18/08	+0.8	(+5.4)	+0.5	+2.4	+1.1	+1.8	+0.4	+3.6	+78.5	+76.0	+0.2
18/09	+0.1	(+5.6)	+0.2	+0.6	▲1.2	▲0.7	+0.2	+2.3	+78.4	+76.0	+0.2
18/10	▲0.2	(+3.8)	▲0.1	▲0.7	+0.2	▲0.3	▲0.2	▲3.1	+78.1	+75.8	+0.2
18/11	+0.6	(+3.9)	▲0.0	+1.7	+3.3	+1.6	▲0.1	+0.3	+78.5	+75.7	+0.2

(注)カッコ内は前年比

18年11月の鉱工業生産は、前月比+0.6%（10月同▲0.2%）と市場予想の同+0.3%を上回ったものの、6-10月合計で0.4p下方改定されており、実態は予想よりも弱い内容。鉱業が増加に転じたうえ、公益事業が気温の低下などにより前月比+3.3%とプラス幅を拡大した一方、製造業が非鉄、加工金属、航空機・その他輸送設備等の減少により前月比▲0.0%（▲0.1%）にとどまった。製造業生産はドル高等の影響により市場予想の同+0.3%を下回ったうえ、6-10月合計0.4%p下方改定された。

3ヶ月移動平均・3ヶ月前対比年率では、鉱工業生産が+3.6%（前月+5.5%）、製造業生産が+2.1%（前月+4.1%）と減速しており、ドル高や関税引き上げ合戦など貿易戦争の影響を受け生産の拡大モメンタムはやや弱まった。ただし、国内需要の拡大によって伸び率が高いことなどから、米国の生産活動は引き続き堅調さを維持していると判断される。

業種別にみると、コンピューター・電子機器、電気設備・部品、自動車・同部品、プラスチック・ゴム製品が拡大に転じたほか、一次金属、化学が加速した。また、一般機械が拡大を続けた。一方、非鉄、加工金属、航空機・その他輸送設備、その他耐久財、繊維、紙、その他製造業が減少に転じたうえ、食品・飲料・タバコ、アパレル、木材製品が減少を続け、印刷・同サポート、石油・石炭が減少幅を拡大した。さらに、家具・関連製品が減速した。

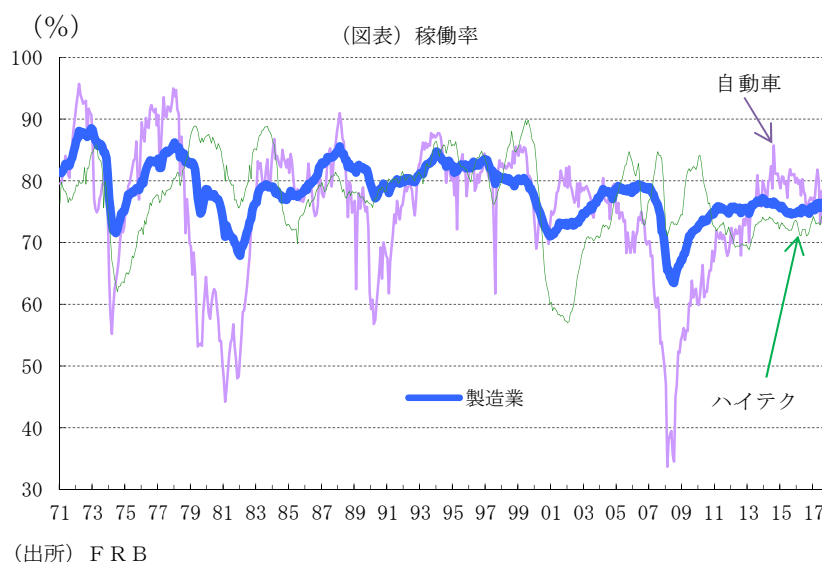
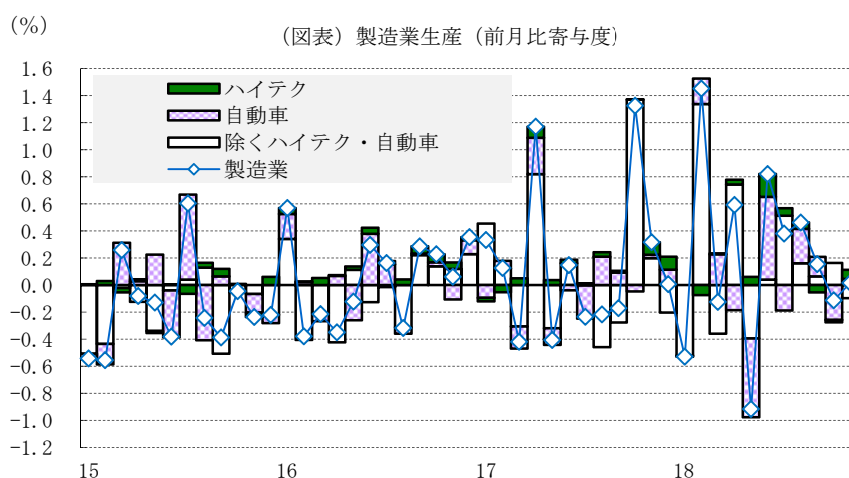
稼働率では、設備投資の加速による生産能力の拡大が続くなか、生産の拡大を背景に鉱工業全体が78.5%（前月78.1%）と上昇した（市場予想78.6%）。一方、製造業は生産の停滞によって75.7%（前月75.8%）と低下した。

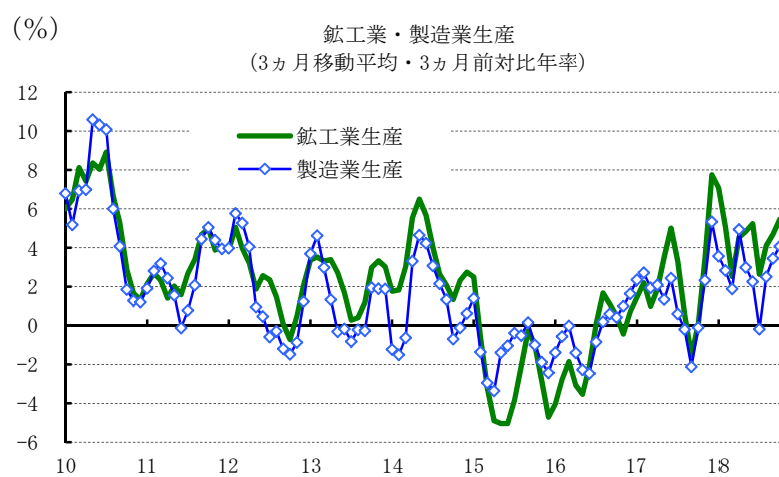
業種別では、一次金属が73.4%（前月71.7%）、一般機械が80.7%（前月80.2%）、自動車が78.3%（前月78.2%）、電気設備・部品が76.7%（前月76.6%）と上昇した。一方、加工金属が81.4%（前月81.6%）、コンピューター・電子機器が71.6%（前月71.8%）、家具が76.5%（前月76.4%）と低下した。

四半期でみると、10、11月の鉱工業生産は7-9月期比年率+2.0%と7-9月期の前期比年率+4.7%から減速した。公益事業が7-9月期比年率+5.8%（7-9月期前期比年率▲5.6%）と増加に転じたものの、製造業生産が7-9月期比年率+0.7%（7-9月期前期比年率+3.4%）と減速したうえ、鉱業が7-9月期比年率+5.5%（7-9月期前期比年率+18.3%）と大幅に鈍化した。

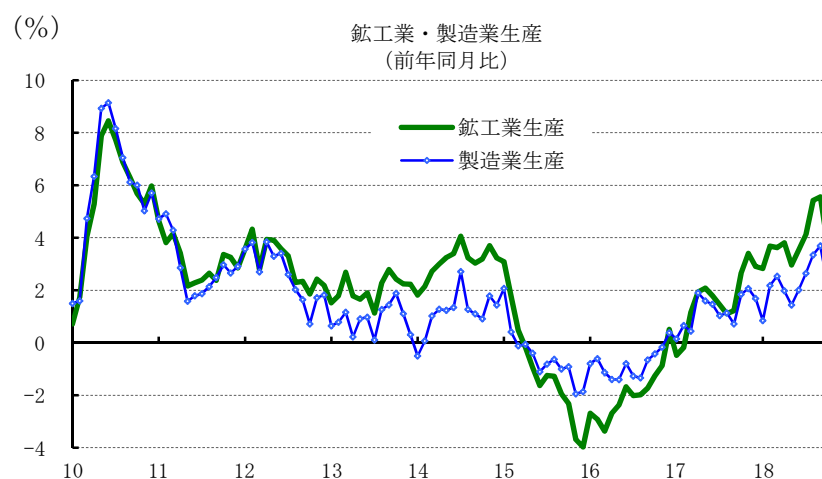
18年の生産活動は、高い水準のドル実効レートや貿易戦争によるコスト増加の影響を受けながらも、内外需要の拡大傾向等を背景に加速したとみられ、製造業生産が+2.3%（17年+1.2%）、鉱工業生産が+3.9%（同+1.6%）と予想。

19年には、米国内需要に支えられ、製造業生産が+2.1%、鉱工業生産が+3.2%と緩やかな拡大を見込む。





(出所) F R B



(出所) F R B

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。